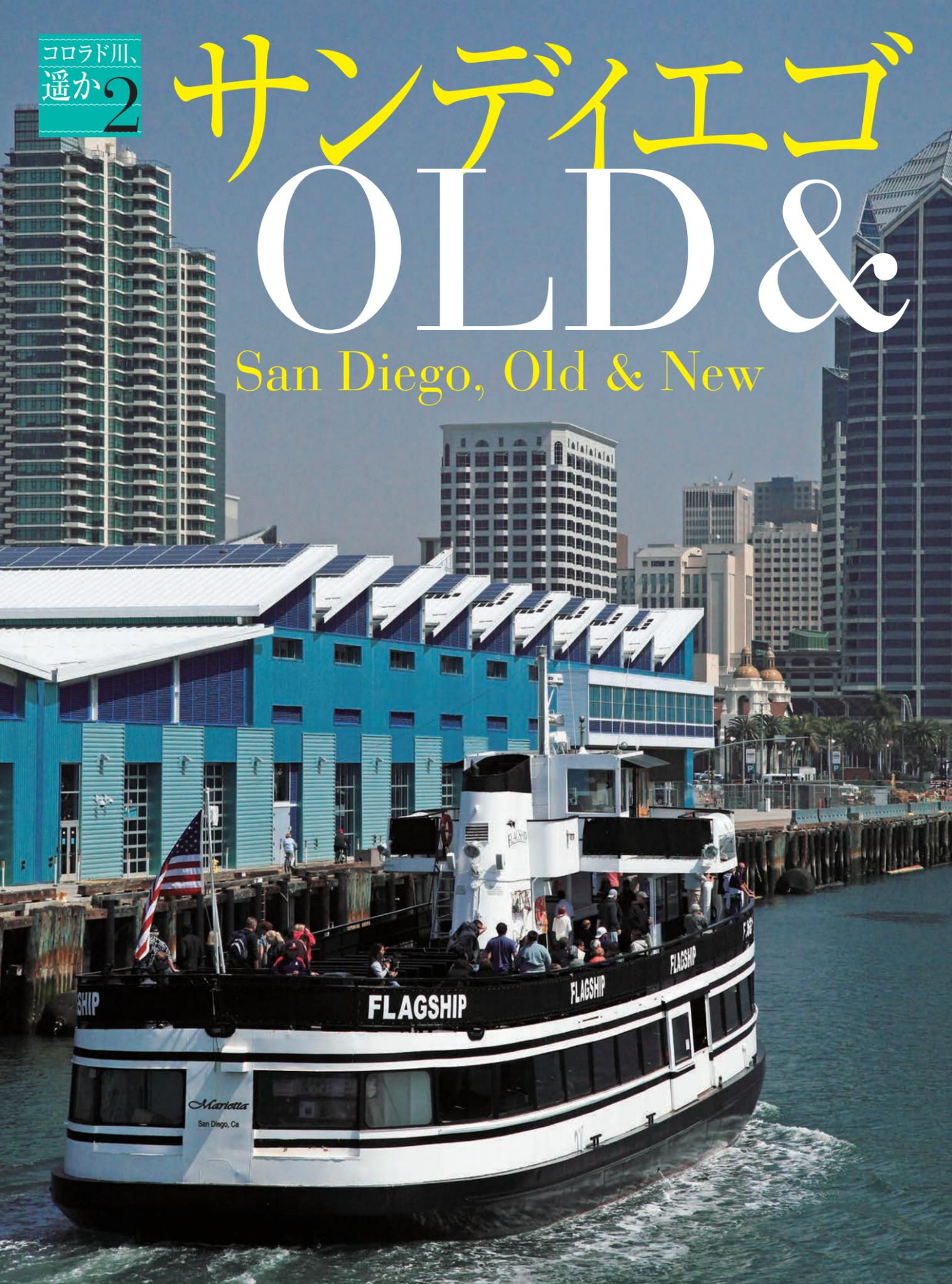


コロラド川、
遙か2

サンディエゴ

OLD &

San Diego, Old & New



西海岸の都市開発に欠かせない水源を担ったコロラド川。アメリカ最南端に位置するサンディエゴもそのひとつだ。18世紀、スペイン人の入植と共に発展、メキシコ統治時代の残り香が漂うオールドタウンからカリフォルニアの風が吹くコロナド島のリゾート、さらには海兵隊の基地としての一画まで、歩んで来た歴史がそのまま交錯する街は、様々な表情を見せてくれる。

鈴木博美=文 Ryoichi Sato=撮影
Text by Hiromi Suzuki Photo by Ryoichi Sato





1769年7月、フランシスコ会 修道士フニペロ・セラによって建設されたミッション・サンディエゴ・デ・アルカラ。ここを基点にサンフランシスコの北のソラノまで21のミッションが建設された。



ダウントウンの北西、約5kmにあるオールドタウン・サンディエゴ州立歴史公園。1821年から1872年の街並が再現された歴史公園となっている。タイムスリップした気分で自由に散策したり、無料のガイドツアーに参加するのもいい。



オールド アメリカの 残り香

青く澄み切った空の下、強い陽光を受けた白い漆喰壁の教会が、眩しいほどの輝きを放っていた。この教会こそ、カリフォルニアの歩みの原点である。

一五四二年、ポルトガル人の探検家であるファン・ロドリゲス・カプリロが、当時スペインの領土だったメキシコ西岸から遠征、ヨーロッパ人として初めて現在のサンディエゴ湾に突き出た岬、ポイント・ロマに上陸した。それからおよそ二〇〇年後、スペイン人による入植が始まり、一七六九から五四年をかけて、カリフォルニアの植民地統治の強化と布教を目的に、最南端のサンディエゴから最北端のサンフランシスコ・ソラノまでを結ぶおよそ一〇〇〇キロの海岸線に、二一の伝道所「カリフォルニア・ミッション」を建てた。伝道所間を結ぶ道は「El Camino Real（王の道）」と名付けられた。現在、サンフランシスコやロサンゼルスなど西海岸に多く残るスペイン語名の地名や通りの名前は、この当時に由来する。

そして最初に建てられた伝道所が、サンディエゴのオールドタウンにあったミッション・サンディエゴ・デ・アルカラである（現在は一〇キロほど離れた別の場所に移設されている）。ゆえにオールドタウンは、サンディエゴ発祥の地であると共にカリフォルニアの始まりの地とも呼ばれている。

オールドタウンは現在、スペインから独立したメキシコが統治していた一八〇〇年代の街並を保存・再現した州立歴史公園となっている。アルマス広場を囲むように、サンディエゴで最初のタバコ屋さん、銀行、ゼネラルストアなどが軒を連ね、色鮮やかなメキシコ雑貨が当時の面影を偲ばせる。開拓時代の衣装に身を包んだ店員の姿と、マリアッチが奏でる陽気な音楽が交差する雰囲気は、アメリカに在ることを一瞬忘れてしまいうようになる。公園内に残る重要な建築物のひとつに数えられる「カーザ・デ・エストゥディージョ」は、一八二五年に建てられた日干しレンガ造りの荘園風邸宅。アメリカ合衆国国家歴史登録財及び国定歴史建造物にも指定されている、歴史的価値が非常に高い建物だ。「ここは「ラモーナ」という、一八八四年にアメリカでベストセラールとなった古い小説の舞台となりました。著者のヘレン・ハント・ジ

メキシコ風のレストラン、カフェ、ブティック、土産物店などが軒を連ねているオールドタウン。町中では近郊で生産されているワインやオリーブオイルなどのショッピングも楽しめる。本格メキシカンを食べたり、テキーラで乾杯したりとのんびり過ごしたい。



コロラド川、
遙か2
AGORA Special
San Diego, Old & New



豊かな土壌と豊穡の海に恵まれたサンディエゴは、地元産の食材が豊富に揃うおかげで食文化も発達。ガスランプ・クォーターにはハンバーガー店から高級シーフードレストランまで、おいしい店が集まっている。

ヤクソンは、ここに滞在してその物語を書いていんだ」と、オールドアメリカ風の衣装を纏った係員が話してくれた。メキシコの上流階級の娘である主人公ラモーナがネイティブ・アメリカンの男性と恋に落ちるロマンスだが、その後には過酷な運命が待ち受けているという先住民への差別問題を取り上げた物語で、後にネイティブ・アメリカンに市民権を与えるきっかけにもなった。また小説に共感した多くのファンは、この荘園邸宅を訪れて物語の余韻にひたり、結婚式を挙げるカップルまで現れる社会現象を巻き起こしたという。また「カーザ・デ・エストゥディオ」の隣に立つ、一八六

多様性を認める街

九年に建てられたサルーン「ザ・コスモポリタン・ホテル&レストラン」は、今でも宿泊することができる。部屋の前のテーブルに焼きたてのスコーンと温かい飲み物を用意してくれる粋な朝食サービス付きだ。まだ誰もいない静寂のオールドタウンを眺めながら、スコーンと紅茶で一日の始まりを迎えてみるのも悪くない。

アメリカ合衆国、カリフォルニア州として新たな歴史の幕が開かれると、サンディエゴは、天然の良港を基盤に発展を続けた。パナマ運河を通過した船舶の寄港地として重要な役割を果たすと共に、軍事用の飛行艇の開発が始まる。第二次世界大戦の最中、太平洋艦隊司令部が置かれると、湾の周りは埋め立てられ、キャンプや補給基地、病院へと次々と姿を変えていった。こうした歴史的背景から、サンディエゴは、世界で最も軍事基地が集まる街となった。カプリコが上陸したときから、全ては良港を持つサンディエゴの定めだったのかもしれない。

ウォーターフロントから一本中



1●19世紀末のビクトリア調建築をそのまま残したガスランプ・クォーター。国立歴史地区に指定されている街並は、夜になるとアンティーク調のライトが灯りロマンティックな雰囲気に包まれる。2●かつては荒れ果てたガスランプ・クォーター地区だったが、市民や地元有力者たちの開発努力によって、ファッションブルなエリアとなって生まれ変わり、今ではロコや世界各国の旅行者で賑わいを見せている。3●軍と共に発展してきたサンディエゴ湾は巡視艇が行き交う。退役した航空母艦を一般公開しているUSSミッドウェイ博物館は興味深い。4●ウォーターフロントに立つ眺めの良いレストランや買い物を楽しめるシーポートビレッジにも足を延ばしてみたい。



サンディエゴにはローカルビール会社が60社以上存在する。テラス席でのんびりとドラフトや瓶の地ビールを飲み比べてみるのも楽しい。